



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

市販薬と病院の薬

薬には、薬局でだれもが自由に買える「市販薬」と、医師が診断をもとに処方する「医療用医薬品」の2種類があります。今回は、この市販薬と医療用医薬品の違いについてお話しします。

まず、市販薬とは、軽い症状を短期間で治すことを目的にしている薬です。いろいろな人がさまざまな症状を治すために飲むため、医療用薬品に比べ多くの成分が含まれていますが、それぞれの成分は少量ずつとなっています。例えば風邪薬の場合、熱を下げる成分、炎症を抑える成分、鼻水を抑える成分、咳を抑える成分など、多くの成分が少量ずつ含まれており、その成分には長年使用されてきて安全が確認されているものが選ばれています。

これに対して医療用薬品は、患者

の症状を医師が判断して処方するオーダーメイドとなり、必要な成分を必要な分だけ飲むことになり、医師の指示通りに飲めば、市販薬を飲むよりも早い改善が期待できるでしょう。

薬は、症状に合ったものを選ぶなければ効果が無いのは当然のことです。例えば「胃腸薬」といわれる薬にも「胸焼け」「胃痛」「腹痛」「吐き気」「下痢」「食欲不振」など、さまざまな症状に対応する薬がありますので、薬局で自分の症状を薬剤師に話し、症状に合った薬を選んでもらいましょう。

また、卵アレルギーやぜんそく、緑内障などの病気がある方は、飲めない薬もありますので、そのことを必ず伝えるようにしてください。

鎮痛解熱剤などは、2〜3回飲んで効果を感じなければ、同じものを飲み続けてもあまり意味がありません。風邪薬も、3〜4日飲んでも改

善が見られない場合や、むしろ悪くなってきた場合には、肺炎を起こしている可能性もありますので、ひとまず服用をやめて、病院で診察を受けるようにしましょう。

市販薬には安全性の高い成分が使われているため危険は少ないですが、ドラドラと長期間使うことは、やはり体に良くありません。副作用が起きたり、慢性症状になってしまいうこともありますので、注意が必要です。例えば、鎮痛薬を常用していると、知らないうちに胃を荒らしてしまうことがあります。また、噴霧タイプの点鼻薬を常用していると、慢性鼻炎になることもあります。市販薬を服用する際は、あくまでも短期間で症状を抑えることが基本と考えてください。

薬を服用して効果がないなど感じたり、飲み続けてよいのか迷ったときは、薬剤師に相談するようにしてください。